

芦屋市総合計画審議会の項目別意見一覧表 (第2回会議(平成22年7月10日)終了時点)

- 1 「まちづくり」の言葉の定義 .....2
- 2 第4次総合計画のアピールできるもの(目玉) .....4
- 3 前期基本計画の「市民に望むこと」の表現 .....5
- 4 基本構想の構成等 .....6
- 5 文章の主語 .....8
- 6 策定の背景の文章表現 .....9
- 7 将来像 .....12
- 8 まちづくりの目標 .....13
- 9 アンケート結果の分析,文章表現 .....14
- 10 芦屋の活性化につながる新たな資源の発掘 .....16
- 11 「市民会議が描く芦屋の将来の姿」における文章表現 .....17
- 12 第3次総合計画とのつながり .....18

## 1 「まちづくり」の言葉の定義

会議(日付)	意見	7/31 時点での事務局での対応
第1回(6月27日)	・ 第4次総合計画の冒頭で、考え方としてしっかり述べておくのがいいのではないか。	「まちづくり」の定義を冒頭に載せる。 (内容については、今後の審議会での議論を待つ。)
第1回(6月27日)	・ 「柱になる言葉」については、冒頭部分というか、目立つところ(市民と共有できる場所)で、しっかり述べていく。	
第1回(6月27日)	・ 基本構想としてまちづくりをどのように捕らえるかを、基本構想の中で述べることが重要ではないか。	
第1回(6月27日)	・ 厳格な定義でなくてもいい。一般的な内容でなく、「芦屋の計画ではこのように定義する」ということにしてはどうか。	
第1回(6月27日)	・ 述べる場所としては、基本構想(第3章)の冒頭がいいのではないか。	
第1回(6月27日)	・ 市民会議で議論を積み重ねてきた内容を定義として述べもいいのではないか。	
第1回(6月27日)	・ 「主人公としての市民を尊重しながら進めてきた」ことについては、「まちづくり」という言葉を定義していく中に盛り込んではどうか。	
第2回(7月10日)	・ 「ハードとソフトの両方が並行していて、その中で、市民と市が協働することでいいまちをつくっていく」ことを強調した文章とした方がいい。	
第2回(7月10日)	・ 将来像の説明文を参考として一緒に考えてはどうか。	
第2回(7月10日)	・ 「他の市町村の人にも見ていただきたいもの」を市民と市が一緒になって創り上げることが重要であり、それを宣伝することで芦屋に来ていただくようにする方向で、市民と市が一緒になってまちづくりを進めていくことが重要であると考え。	
第2回(7月10日)	・ 「まちづくり」という言葉がいたるところに出てきているので、整理する必要がある。	「まちづくり」という言葉の使用を整理する。 (部会の名称変更については、今後の審議会での議論を待つ。)
第2回(7月10日)	・ 「まちづくりの目標」という言葉が中身に即したタイトルになっていない。タイトルを設定するときには、定義を冒頭で宣言するなど、誤解のない組立になるよう配慮する必要がある。	
第2回(7月10日)	・ 「まちづくり部会」の名称を変更してはどうか。例えば「街並みづくり」などと表現を変えていくことが必要ではないか。	
第2回(7月10日)	・ 市民会議の部会名で使われていた「まちづくり」という言葉については、変更してもいいと思うが、これまでの過程で作成に携わってきた方々の気持ちも考え、相談しながら決めていく必要がある。	
第2回(7月10日)	・ 市民会議で基本構想素案の作成をした際には、「10年後の姿」や「(テーマ毎の)将来像」という形(言葉)で、議論をとりまとめてきたが、原案としてとりまとめられるに当たっ	

会議(日付)	意 見	7/31 時点での事務局での対応
	<p>ては、「まちづくりの目標」という言葉に変わってきており，それが多岐にわたって使われているので，誤解を招く恐れが生じている。</p>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誤解を解消できるように表現を工夫する必要があるが，「部会名を変更する」ことも，誤解を解消するための1つの方法であるし，多岐にわたって使われている「まちづくりの目標」という言葉を変更する」ことも，1つの方法であると思う。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「まちづくりの目標」「まちづくりの基本方針」に「まちづくり」を使わない方がいい。</li> </ul>	

## 2 第4次総合計画のアピールできるもの（目玉）

会議(日付)	意見	7/31 時点での事務局での対応
第1回(6月27日)	・ 第4次総合計画の中で、何かアピールできるもの(目玉)、他市に誇れるような、「芦屋はこんなにいいまちである」といった内容を盛り込むべきではないのか。	(今後の審議会での議論を待つ。)
第1回(6月27日)	・ 「まちづくり」といふ言葉を定義していく中で明らかになってくるかもしれない。	
第1回(6月27日)	・ 市民中心で取組を進めてきたことがアピールできるもの(目玉)ではないか。	
第2回(7月10日)	・ 今回の総合計画の策定の取組自体も「目玉」として書くことができないか。書くとすれば第3章の「3-2 基本構想に実現に向けて大切にすること」の中に書きたい。	
第2回(7月10日)	・ 高齢化は年々進んでいくが、若い世代の、「頑張っているまちをつくっていこう」という意気込みにつながるようなものを発信できたらいいと思う。前向きな考え方を盛り込み、表現できれば、「元気」につながっていくと思うので、文化も生産につながると考え、計画の目玉として、「芦屋らしさの発信」を盛り込んではどうか。	

### 3 前期基本計画の「市民に望むこと」の表現

会議(日付)	意見	7/31 時点での事務局での対応
第1回(6月27日)	・ 行政から市民に何かを期待する印象になっている。	(今後の審議会での議論を待つ。)
第1回(6月27日)	・ まちづくりにおいて何を指すのかを明確にすることで市民の立ち位置も定まる。	
第1回(6月27日)	・ 「市民の役割」、「行政の役割」はありきたりの表現なので、芦屋らしい表現がいい。	
第1回(6月27日)	・ 市民と市が一緒になって進めていく姿勢でこの計画づくりに取り組んできたのに、このような表現が出てきたのか理解できない。	
第1回(6月27日)	・ 今までは、行政主導で物事を進めることが多かった。しかし、この計画づくりで取り組んできたように、これからは「もっと市民も中に入ってきて、一緒になって(協働で)進めていく」ことが重要であると考え。	
第1回(6月27日)	・ 「行政側が市民と一緒にやりたいこと(もしくは市民にやってもらいたいこと)」といったものがあり、それらの一部が、今回このような「市民にしてもらいたいこと」という形で表現されたように思う。ただ、表現については、例えば、「一緒にやりたいこと」とするなど、より適切なものに変えたほうがいい	
第1回(6月27日)	・ これからは、行政がサービスを提供するだけでなく、住んでいる人が望むことを、「市民と市が一緒になって(協働で)進めていく」ことが求められる	
第1回(6月27日)	・ 基本構想を実現するための前期基本計画(5年間)は、行政の責任において進めていくものではあるが、その中でも、やはり「共に(一緒に)取り組んでいく」ことが大切であり、「市民に望むこと」といったスタンスでは駄目であり、「共に(一緒に)取り組むもの」といった形で表現していかなければならない。	
第1回(6月27日)	・ 計画の進行に当たっては、当然市の責任で進めていかなければならないが、それに市民がどれだけ協力し、関わっていけるかがポイントになってくると思う。よって、表現としては「市民に望むこと」ではなく、もっと協働ということが伝わりやすいものであるべきではないか。	
第1回(6月27日)	・ 「共に、一緒に何かを目指す」ことが趣旨ではないか。	
第1回(6月27日)	・ 「共に(一緒に)取り組むもの」	

## 4 基本構想の構成等

会議(日付)	意見	7/31 時点での事務局での対応
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本構想の大きな流れとしては、「前提となる社会的背景」と「市民会議で議論した過程」という2つのことがあって、それを受けて、第3章で「目標を掲げる」ということになる。 本来の「策定の背景」としては、「市民参画に関する条例等も整備され、総合計画についても市民参画で作成する運びとなった」ということで、「財政状況が厳しくなった」、「少子高齢化が進展した」といったことは、単なる「社会的な環境の変化」であり、これについては、「世の中のこと」という形で整理し、本来の「策定の背景」と区分することにより、構成をすっきりさせたほうがいいのではないか。 10ページの「1-5 市民会議が芦屋の将来の姿を描く」あたりをもう少し充実させ、本来の「策定の背景」にするべきではないか。 「世の中の環境の変化」については、「序章」、「前段」といった位置付けにしてはどうか。</li> </ul>	<p>基本構想全体の構成を変更する。</p> <p>-----</p> <p>第4次芦屋市総合計画について (「まちづくり」の言葉の定義を加える)</p> <p>第1章 策定の背景 1-1 市民と行政の協働による計画づくり 1-2 社会的背景</p> <p>第2章 市民会議が描く芦屋の将来の姿 2-1 芦屋の将来像 2-2 6つの視点から見た将来像・10年後の姿</p> <p>第3章 基本構想 3-1 将来像 3-2 基本構想の実現に向けて大切にしたいこと 3-3 基本方針 3-4 目標とする10年後の芦屋の姿</p> <p>資料 芦屋市の状況 資料-1 市民アンケート調査結果 資料-2 芦屋市の人口推移と将来推計人口 資料-3 芦屋市の財政状況</p> <p>-----</p>
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「策定の背景」については、「今までの大きな流れ」を盛り込んだ上で、「1-1 社会的背景 ~ 地方行政から地域主権へ ~」の「(5) 地域の課題は地域に暮らす人々が解決する時代へ」(3ページ)のあたりや、「1-5 市民会議が芦屋の将来の姿を描く」の「(2) 市民会議で芦屋の将来の姿を検討」(10ページ)において、「主語を We にする」というか、もっと「協働の部分」を謳えばよいのではないか。 その上で、「第2章 市民会議が描く芦屋の将来の姿」以下につなげていけば、わかりやすくなる。 「第2章 市民会議が描く芦屋の将来の姿」以下は、比較的、協働の表現になっているので、「第1章 策定の背景」を整理することですっきりしてくると思う。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>この基本構想の中では、所謂「一般的なこと」と「芦屋らしいこと」が混在しており、「ストーリーとしての通りが悪い」と思う。市民会議での議論も踏まえ、「数字などの事実を淡々と示す」部分と、「暮らし文化」に表されるような、芦屋らしい部分を、きっちり分けて書くべきではないか。 今は、それらが行ったり来たりしているので、全体としての話の流れがわかりにくくなっているのではないか。 今回の総合計画の策定に当たっては、「策定の背景の中で、市民と市が一緒になって、</li> </ul>	<p>「1-2 社会的背景」では、芦屋市の状況にも触れる内容に修正する。</p>

会議(日付)	意 見	7/31 時点での事務局での対応
	<p>どのようなまちを目指すかを一から考えることに至った」のであるから、そのことを、まず、第1章の冒頭でまとめて書くべきではないか。</p> <p>その上で、「行政が置かれている厳しい状況」についてもまとめて書き、それらを踏まえて、「市民と市が一緒になって考えた結果である「将来像」の考え方」を示し、それを受けて基本構想を書くという流れで、わかりやすい構成にするべきではないか。</p> <p>市民会議では、テーマ毎に6つの部会に分かれて議論してきたが、どのテーマにおいても、ほとんど同じことが話されていた。これは、部門別の発想から総合的な発想に転換した結果であると思う。</p> <p>基本構想においては、「まちづくり」という言葉を多用するのではなく、最初にある程度のスペースを用い、「まちづくりの考え方」、「今回の計画の特徴」、「市民会議の位置づけ」などをきっちり書いた上で、(4つの)基本方針につなげていくべきである。</p> <p>また、基本方針の中で「まちづくり」という言葉は使わず、その下につながる「まちづくりの目標」においても、「まちづくり」という言葉は使うべきではない。</p>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本構想の第2章では「芦屋」という言葉がたくさん出てくるが、第3章になると、逆に「芦屋」という言葉がほとんど出てこなくなるので、流れとして違和感を覚える。</li> </ul>	

## 5 文章の主語

会議(日付)	意見	7/31 時点での事務局での対応
第1回(6月27日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本計画は行政の責任においてすすめていくものであるが、基本構想ではもっと「We(私たち)」を主語に書くことで、みんなが共有できるものにすることが重要である。</li> </ul>	<p>「第1章 策定の背景」で「私たちの計画」と明記する。</p>
第1回(6月27日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「主語を、わざわざ書かなくてもいいのではないか」という考え方もあるが、あまりに「主語がない」文章が並ぶわけにもいかず、特に基本構想においては、「みんなで作ったもの」ということが、しっかり伝わるような表現になっている必要があり、そうすることによって、みんながスタートラインに立てる。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「市民と市が一緒になっていいまちを作っていく」ことが本来であり、「同じ芦屋を良くする仲間」として主語を「We(私たち)」にして書けばすっきりするのではないかと。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>主語を「We(私たち)」とすると主観的であるため、例えば「芦屋市」とするなど、もう少し客観的なものを主語にして書いた方がいい。</li> </ul>	



## 6 策定の背景の文章表現

会議(日付)	意見	7/31 時点での事務局での対応
第1回(6月27日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民参画及び協働の推進に関する条例などができ、総合計画の策定に当たっては市民会議を設置し、市民中心で議論を展開してきたということは、成果は着実に表れてきているので、「策定の背景」という位置づけで、もっと前段部分でうたってもいいのではないか。</li> </ul>	<p>基本構想全体の構成を変更する。 (6ページ参照)</p>
第1回(6月27日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の総合計画は、単なる(従来型の)行政の計画ではなく、もっと多くの人の承認を得る手続きを経て、進めてきたものである。これまでの取組を積極的に評価し、姿勢を明確に示すことが大切なのではないか。</li> </ul>	<p>基本構想の構成を変更し、新たに作成した「1-1 市民と行政の協働による計画づくり」は、「1-2 芦屋市の状況」から(1)(2)を、「1-5 市民会議が芦屋の将来の姿を描く」から(1)(2)を抜き取り、新たにこれまでの市民参画・協働の取組を加えて作成する。</p>
第1回(6月27日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋の(みんなの)総合計画であり、行政が勝手に作成したものではない。市民会議の提言なども受けて、一緒に作成してきたものである。</li> </ul>	<p>「第1章 策定の背景」で「私たちの計画」と明記する。</p>
第1回(6月27日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の総合計画の策定に当たり、策定の仕方の趣旨、実際の策定の過程などにおいて「市民中心」であったことが特徴なので、そのこと冒頭に盛り込み、策定過程において、市民と市、「みんなで作ってあげた」ということを、特に謳っていただきたい</li> </ul>	
第1回(6月27日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民会議の議論に加え、職員会議も並行して議論を積み重ね、一緒につくりあげてきた過程をきっちり説明していき、「芦屋らしい取組」として示すことはできないか。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「策定の背景」というタイトルにしておきながら、その中で書かれている内容が現状のことばかりであれば、タイトルを変える必要がある。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「策定の背景」については、芦屋市では、「市民参画および協働の推進に関する条例」などが整備され、「市民と市と一緒に取り組んでいく」機運が高まってきたという大きな流れがある。そのような流れの中で、今回の総合計画の策定に当たっても、「市民会議と職員会議を立ち上げ、一緒に取り組んできた」ということがよくわかるように書く。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「市民と市がいかに協働するか」という部分が抜けているので、「協働でできること」をしっかりと盛り込むことにより、書き換えていく必要があるのではないか。</li> </ul>	<p>「1-1 社会的背景」の文書を修正し、下記の文章を追記する。</p>
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第1章 策定の背景」は、少し「行政の目線」になってしまっている。市民会議で議論していたのは、「財政状況の悪化、少子高齢化、地域主権への流れの中で、市と市民がいかに協働して、いいまちづくりを進めていくか」ということであった。それに対し、「増大する行政需要に対し、今の行政の資源では対応が難しい」というニュアンスで書かれ、これが策定の背景であると言われると、我々が市民会議で議論していた、「今まで通りの行政のやり方でまちづくりを進めるのではなく、やり方についても協働で(一緒に)考えていく」という方向性とも異なり、違和感を覚える。</li> </ul>	<p>「個性や多様性、心の豊かさを求める価値観が広がり、地域のために活動することに生きがいを見出す人々が増え、地域での人々の信頼や連帯感を取り戻す動きに加え、これまで行政が行ってきた公共サービスの提供者となり得る意欲と能力を備えた市民活動や NPO 活動が全国的に増えており、芦屋においてもそのような活動が活発化して</p>

会議(日付)	意見	7/31 時点での事務局での対応
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「行政経営資源の限界」,「地域住民の課題解決意欲の低下」といった,かなり「先が苦しい状況」が書かれているが,そうであるならば,地域をクローズアップし,市民会議でも議論があったように,「地域住民(市民)を「資源」と捉える」ことが,本当に必要なことなのではないか。</li> <li>そして,それに伴って,「市の職員の能力アップ」ということについても,積極的に触れていかなければいけないのではないか。「限界と言わざるを得ない状況」も理解できるが,それを打ち破っていくことも考えなければいけないのではないか。</li> </ul>	きている。」
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2ページの「(3) 地方行政の肥大化と地域住民による課題解決意欲の低下」の4行目に,「行政のみで何にでも対応していくことは行政の肥大化を招くことに加え,地域の課題を住民が協力して解決する意欲や連帯感を低下させる」とあるが,この表現には違和感を覚える。もっと「肯定的に捉えた言い方」にすべきではないか。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2ページの「(3) 地方行政の肥大化と地域住民による課題解決意欲の低下」の文章は,読み方によっては,「行政の資源が限られてきているから,市民に助けてもらう」と受け取られかねない。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本来の考え方でいくと,「できる限り住民の身近なところに決定権を下ろす」という補完性の原理で考えなければならないが,「行政が何でもやることにより,住民の意欲が低下する」と書いてしまうと誤解を招きかねず,もっと市民の自主性に配慮した文章に変えるべきではないか。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現が「行政の視点になっている」というのは,そのとおりであり,「補完性の原理」という話も出たが,「行政の資源(お金)が限られてきているから,市民に助けてもらう(力を借りる)」というストーリーではなく,「より豊かな暮らしを形成するため」という前向きな姿勢を打ち出す必要がある。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2ページの「(3) 地方行政の肥大化と地域住民による課題解決意欲の低下」の3行目に,「出口の見えない疲労感や閉塞感を感じざるを得ない状況」といった表現があるが,実際にそのような気持ちでいるのだとしたら,我々が議論してきたことと,あまりにも視点が違うことになる。</li> </ul>	該当文章を削除し,「行政だけできめ細かなサービスまでも担っていくことは限界がある状況となっている。」などの表現に修正する。
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「限りある行政経営資源」ではなく,「資源を見つける」という選択肢もあるのではないか。「資源と成り得るものの可能性を追求する」,「新しい経営資源を作り出していく」ことが大切である。</li> </ul>	「芦屋の資源を発掘,再発見」などの表現を追記する。

会議(日付)	意見	7/31 時点での事務局での対応
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「1-5 市民会議が芦屋の将来を描く」の「(1) 芦屋の魅力を高めてまちへの愛着を深めるとき」(10ページ)の中に、「行政サービスについて何をどこまでやるかをさらに選択していかなければならない時になっています」とあるが、このような「どこまで」という限界を示すような表現にするのではなく、もっと視点を変えて、「どのように」といった、いろいろなやり方を考えるような、前向きな表現を考えるべきではないか。</li> </ul>	<p>「第1章 策定の背景」の全体の構成や文章等を変更し、該当か所を削除する。</p>
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋市は、税収が落ち込んできているにも関わらず、市債残高も減らし続けており、この点については評価できる。今までの議論の流れでは、「所謂一般的な、社会の流れ」と「(芦屋らしい) 策定の背景」とは、別に分けて記載する流れになっていたと思うが、この「所謂一般的な、社会の流れ」の中に、「これまで歳出の削減を頑張ってきた」ことを盛り込んでもいいのではないか。  そうすることによって、「だから市民にも頑張ってもらいたい」といった流れになってしまうようでは意味が無いが、そうならないように表現方法を工夫して、「これまで歳出の削減を頑張ってきた」ことを盛り込んでもいいと思う。</li> </ul>	<p>(今後の審議会での議論を待つ。)</p>

## 7 将来像

会議(日付)	意見	7/31 時点での事務局での対応
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の10年間における「芦屋のキャッチフレーズ」のようなものになるなら、情報の共有という観点から、例えば「小学生でも知っている」など、認知度を高めていく働きかけが必要である。</li> </ul>	<p>「第3章 基本構想」の冒頭で、市としての将来像を改めて大きく記載する。 (文言については、今後の審議会での議論を待つ。)</p>
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>表紙に載せてはどうか。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「新しい暮らし文化」の「新しい」は、これまでと180度違うようなイメージになるので理解しづらい。もっと明確で、よりわかりやすい言葉を検討すべきではないか。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在のキャッチフレーズの言葉自体が難しい(小学生などが理解しづらい)のであれば、代替案は、この審議会の中で検討し、決めていくべきである。この審議会の議論を進めていく中で、最終的にキャッチフレーズが固まっていけばいい。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい言葉が出てくると馴染むまでにある程度時間がかかるのではないか。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>この将来像については、市民会議で議論した様々なことを集約した結果であり、その思いがこの言葉にこめられている。「新しい暮らし文化」は見慣れない言葉ではあるが、使っていく中で定着して意味が浸透していけばいいのではないか。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来像としては「コミュニケーションの溢れる自然とみどりのまち芦屋」などがいいのではないか。</li> </ul>	

## 8 まちづくりの目標

会議(日付)	意見	7/31 時点での事務局での対応
第2回(7月10日)	・まちづくりの目標6 自分に合った方法で心身の良好な状態を維持して過ごしている「自分に合った」が気になる。	(今後の審議会での議論を待つ。)
第2回(7月10日)	・まちづくりの目標9 まちの防災力が向上し、災害時に的確に行動できるよう備えているなぜ「(5-1) みどり豊かなまちの骨格が彩られ風情が息づいています)」が入っているのか。	
第2回(7月10日)	・まちづくりの目標9 まちの防災力が向上し、災害時に的確に行動できるよう備えている「(5-1)から(5-5)の10年後の姿」において、それを説明するためにピックアップされた言葉が、「市民会議で議論した内容」とずれている。	
第2回(7月10日)	・まちづくりの目標12 交通マナーと思いやりが行き渡り、市民が移動しやすくなっている「市内が移動しやすく」を「交通の利便性が高い」といった表現に変えるなどの工夫をしてはどうか。	
第2回(7月10日)	・まちづくりの目標14 信頼関係の下で市政が進行している「市政が進行」の表現を「今よりもっと協働が進んでいる」といった芦屋らしい表現にできないか。	
第2回(7月10日)	・安定的な循環により生活が成り立ち、新しい仕事を生み出したり、文化として位置づけられることが大切だと考える。第3章(基本構想)の中に、目標としてあってもいいのではないか。	

## 9 アンケート結果の分析，文章表現

会議(日付)	意見	7/31 時点での事務局での対応
第2回(7月10日)	<p>「(3) 永住希望の減少」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>永住希望の減少については，震災の影響によるのではないか。</li> </ul>	<p>下記の文章を追記する。</p> <p>「平成20年(2008年)の調査では，芦屋市内での通算居住年数別に見ると，居住年数が長くなるほど「住み続けたい(永住希望)」人の割合が高くなっており，新しく芦屋に居住することになった人の割合が増えたことによって「住み続けたい(永住希望)」人の割合が全体として低くなっているのではないかと考えられる。」</p> <p>下記のグラフを追記する。</p> <p>「芦屋市内での通算居住年数ごとの居住継続希望の割合」</p>
第2回(7月10日)	<p>「(4) 地域活動への参加意欲の低下」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動への参加意欲の低下について，新しく芦屋に転入してきた方の影響が大きいと思うので，表現を工夫してはどうか。</li> </ul>	<p>(地域活動への参加意欲とその地域での居住年数の関係について，追加でクロス集計をしたが，関連性は見られなかった。)</p> <p>下記のグラフを追記する。</p> <p>「参加したくない理由の内訳」</p>
第2回(7月10日)	<p>「(4) 地域活動への参加意欲の低下」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「住まいが流動的な人の参加意欲を高める工夫をする」など，もう少し別の表現に変えたほうがいいのかもしい。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<p>「(4) 地域活動への参加意欲の低下」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「なぜ参加したくない人がこれだけいるか」をもっと分析する必要がある。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<p>「(4) 地域活動への参加意欲の低下」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域活動」という言葉が悪いのかもしれない。</li> </ul> <p>芦屋市民は地域の枠にとらわれない様々な文化活動にも参加しており，そのような活動は地域活動には含まれないという限定的なイメージを持っているかもしれず，芦屋らしいことなのかもしれない。</p>	<p>(他都市との比較データがない。)</p>
第2回(7月10日)	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人的な直感だが，客観的なデータ(事実)の裏側には，「芦屋の特殊性」のようなも</li> </ul>	

会議(日付)	意見	7/31 時点での事務局での対応
	<p>のがあるような気がする。それを明らかにして、きちっと整理することは、大きな仕事だと思う。</p>	
<p>第2回(7月10日)</p>	<p>「(4) 地域活動への参加意欲の低下」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニティスクールは、子どもから高齢者の方まで、活発に活動している。自治会においても、活性化しているところがあるのに、アンケート調査になると「地域活動への参加意欲が低い」という結果が出る。</li> </ul> <p>「地域活動という言葉に対する限定的なイメージ」があり、それによりこのような結果が出ているのかもしれないが、活動している者としては、残念な結果である。</p>	

## 10 芦屋の活性化につながる新たな資源の発掘

会議(日付)	意見	7/31 時点での事務局での対応
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市が生き続けていくためには、どのようにして税収を確保していくのが大切になってくる。 芦屋のような住宅都市においては、事業所(の誘致)ではなく、「生活に関わる何らかの循環」というか、変化が起こらないと、ただ住んでいるだけでは何も生まれない。「消費を産業とみなす」という創造的な視点というか、「住宅都市としての経済のあり方」のようなもの、「元気のイメージ」、「稼ぎのイメージ」になるのではないか。</li> </ul>	(今後の審議会での議論を待つ。)
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口増加策を講じることや、人口自体が増加することは、住宅都市としては必ずしもいいことだとは思わない。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化も生産につながると考える。芦屋の文化(芦屋らしさ)を発信し、流入人口を増やし、経済が活性化されることも考えられる。前向きな考え方を盛り込み、表現できれば、「元気」につながっていくと思う。</li> </ul>	
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「寄附文化」をはぐくんでいく必要がある。寄附には「知恵」、「知識」、「技術」といった潜在的なものをうまく引き出していくことが大切ではないか。</li> </ul>	



11 「市民会議が描く芦屋の将来の姿」における文章表現

会議(日付)	意見	7/31 時点での事務局での対応
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「2-2 6つの視点から見た将来像・10年後の姿」の「(6) 行政の視点から見た将来像・10年後の姿」(18 ページ)において、「市債は、市民、行政の努力により大幅に改善されつつありますが、一刻も早く償還し、財政を健全化することが望まれます」とあるが、この「望まれます」という表現が気になる。計画の中で、このような表現で謳うことがふさわしいかどうかを、どこかで議論していただきたい。</li> </ul>	(今後の審議会での議論を待つ。)
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋市においては、確かに、かなりのペースで財政状況の改善に取り組んできたことは、評価されてもいいのかもしれない。税収の増加の見込みが立たない中、これ以上の改善は厳しい状況にあるのも事実である。                      これからは、市の施策の中で、「効果があるものとなないものを、市民と市が一緒になって見極めて」いき、そういう観点で市政を運営していくことが重要である。                      「市を訪れる人が増え、産業が刺激され、市税収入が増える」といったイメージも持ちながら、1つの施策を考える(進める)ことが必要であり、そういう視点から、先ほど指摘があった「望まれます」という表現になってしまったところがある。</li> </ul>	

## 12 第3次総合計画とのつながり

会議(日付)	意見	7/31 時点での事務局での対応
第2回(7月10日)	<ul style="list-style-type: none"><li>第3次総合計画がどうなってきたかを、しっかり把握した上で、第4次総合計画につなげていく視点をもう少し追加してみてもどうか。「第3次総合計画ではこうだったが、第4次総合計画ではこうなっている」といった、「つながりが見えやすい」ほうがいい。そういった経緯を表現した文章が、きちんと盛り込まれていたほうがいいのではないか。</li></ul>	今後の審議会での議論を待つ。